

## 九州バプテスト神学校講義での性的少数者、差別発言を受けて 私たちが共に大事にしていきたいこと

主の平和を祈ります。

ここに、委員会の活動として対応と想いを記します。私共、性差別問題特別委員会は連盟総会の決議を経て、2005年度より性差別を無くすために活動をしています。一環として、2024年度に連盟内の3つの神学校に「性差別に関するアンケート」を行いました。その中に、「学びの場に性的少数者が存在していることを意識していますか」という問いもありました。2024年11月にアンケートの回答を頂きました。その後、2024年12月に九州バプテスト神学校講義2コマにて、講師による性的少数者への差別発言があったとの知らせが、2025年6月に全国の諸教会・伝道所に届きました。

私共の内に、驚きと困惑が生じました。同時に、性差別発言を受け、恐怖と絶望感を覚える方々のことを思わずには、いられませんでした。性的少数者の人権は、未だ社会や教会で守られているとは言えません。日常的に性差別を受け、存在自体が危うくされるような環境下にあります。性的少数者の存在を意識するとは、どういうことでしょうか。成り行きに任せるのではなく、「生き辛さ」を「生きやすさ」に変える手立て、環境整備が必要と思います。人権が、等しく守られるためにです。

本来神学校は、期待をもって入学した神学生が安心して学べる場所ではないでしょうか。今回の件について考え、ただ、悔やんでも起こった事実は変わりません。ここから何をすべきか委員会で話し合い、2025年7月に九州バプテスト神学校へお便りしました。私たちに出来る一番のことは、「共に学ぶこと」と確認し、神学校の運営に携わっておられる方や教師に向け、「共に学びましょう、当委員会をお用いください」と呼びかけをさせて頂きました。

今回、特に分かち合いたいことは、「差別は人を傷付け、殺す」ということです。この重大さを、自分事として受け取り考えたいのです。考えや価値観の違い、聖書の読み方や神さま理解は様々でしょう。けれども、自分の価値観や理解が他者の尊厳を傷付けていないか、他者の存在を否定し、いのちを脅かしていないか吟味する必要があると思います。他者の痛みは分からないと聞きます。そうであるならば、立場を置き換えて考えてはどうでしょう。何時も「同じ者であれ」と圧迫を受け、或いは「異なる者」と分離され排除される苦しみを、本心を打ち明ける安全地帯がどこにも無いことを想像してみませんか。私たちは、性差別を無くすために、先ず自分を知り、他者の尊さを知る者になりたいと願うのです。

最後に、九州バプテスト神学校が、新たな取り組みをされていることを主に感謝します。差別と真摯に向き合われ、更にいのちの尊さを知る神学校として、豊かに用いられますようお祈りいたします。当委員会も学びを継続し、一人でも多くの方々と課題を共有し、性差別を無くす活動を前に進めていきたいと思います。

2025年9月7日

日本バプテスト連盟 性差別問題特別委員会